



セキュア通知トーンおよび非セキュア通知トーンの設定

この章では、セキュア通知トーンおよび非セキュア通知トーンの設定について説明します。システムは、通話が暗号化されているかどうかを示すために、保護対象の電話でセキュアおよび非セキュア通知トーンを再生します。

- [セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンの概要 \(1 ページ\)](#)
- [セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンのヒント \(2 ページ\)](#)
- [セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンの設定作業 \(4 ページ\)](#)

セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンの概要

セキュアトーン機能では、暗号化されているコールの場合にセキュア通知トーンを再生するように電話を設定できます。このトーンは、コールが保護されており、機密情報が交換可能であることを示します。2 秒間のトーンでは、長いビーブ音が 3 回鳴ります。コールが保護されている場合、着信側が応答するとすぐに保護対象の電話でトーンの再生が始まります。

コールが保護されていない場合、システムは、保護対象の電話で非セキュア通知トーンを再生します。非セキュア通知トーンでは、短いビーブ音が 6 回鳴ります。ビデオコールでは、最初にコールの音声部分に対するセキュア通知トーンが聞こえ、次に非セキュアメディア全体に対する非セキュア通知トーンが聞こえる場合があります。

セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンに対応しているコールのタイプを次に示します。

- クラスタ間の IP-to-IP コール
- クラスタ間の保護されたコール
- 保護された MGCP E1 PRI ゲートウェイ経由の IP と時分割多重化 (TDM) コール



- (注) 保護対象の電話機の発信者にも、セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンが聞こえます。保護されていない電話の発信者には、これらのトーンは聞こえません。ビデオコールの場合、システムは、保護されたデバイスでセキュア通知トーンと非セキュア通知トーンを再生します。

保護されたデバイス

設定により、Unified Communications Manager で保護されたデバイスが指定されます。Unified Communications Manager では、サポートされている Cisco Unified IP Phone と MGCP E1 PRI ゲートウェイだけを保護されたデバイスとして設定できます。

Unified Communications Manager は、システムがコールの保護ステータスを判別すると、セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンを再生するように MGCP IOS ゲートウェイに指示することもできます。

セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンを使用できる次のタイプのコールを発信できます。

- クラスタ間の IP-to-IP コール
- システムが保護されたと判断するクラスタ間コール
- 保護された MGCP E1 PRI ゲートウェイ経由の IP から時分割多重化 (TDM) へのコール

サポートされるデバイス

Cisco Unified Reporting を使用して、セキュア通知トーンおよび非セキュア通知トーンをサポートする Cisco IP Phone モデルを確認できます。Cisco Unified Reporting から、[Unified CM Phone Feature List] をクリックします。[Feature] プルダウンメニューから [Secure Tone] を選択します。その機能をサポートする製品のリストが表示されます。

Cisco Unified Reporting の詳細については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンのヒント

この項では、セキュア通知トーン機能を使用することによる影響について説明します。

- 保護されたデバイスについての説明を次に示します。
 - SCCP または SIP を実行する電話機を保護対象デバイスとして設定できます。
 - 保護されたデバイスが暗号化されている非保護デバイスに発信する際はセキュアトーンが再生されますが、保護されたデバイスが非保護デバイスや暗号化されていないデバイスに発信する際は非セキュアトーンが再生されます。

- 保護された電話機間の発信で、メディアが暗号化されていない場合は、コールはドロップしません。システムは、コールに関係している電話機で非セキュア通知トーンを再生します。
- ビデオコールの場合、システムは、保護されたデバイスでセキュア通知トーンと非セキュア通知トーンを再生します。



(注) ビデオコールの場合、ユーザには、最初にコールの音声部分に対するセキュア通知トーンが聞こえ、次に非セキュアメディア全体に対する非セキュア通知トーンが聞こえます。

- Cisco IP Phone に表示されるロックアイコンは、メディアが暗号化されていることを示しますが、その電話が保護対象デバイスとして設定されていることを意味するわけではありません。ただし、保護されたコールを発信するにはロックアイコンが表示されている必要があります。
- 影響を受けるサービスと機能を次に示します。
 - 複数回線の補足サービス（コール転送、会議、コール待機など）は保護対象の電話でサポートされています。ユーザが保護されている電話機で補足サービスを呼び出すと、コールの最新のステータスを反映して、セキュア通知トーンまたは非セキュア通知トーンが再生されます。
 - Cisco Extension Mobility および複数ライン同時通話機能（Join Across Lines）サービスは、保護対象の電話では無効です。
 - 共有回線の設定は、保護対象の電話では使用できません。
 - 保留/再開および不在転送は保護対象のコールでサポートされます。
- 次に、MGCP E1 PRI ゲートウェイについての説明を示します。
 - SRTP 暗号化の MGCP ゲートウェイを設定する必要があります。次のコマンドを使用してゲートウェイを設定します。**mgcppackage-capabilitysrtp-packag**
 - MGCP ゲートウェイでは、[高度な IP サービス（Advanced IP Services）] または [高度な企業サービス（Advanced Enterprise Services）] イメージを指定する必要があります。たとえば、c3745-adventerprisek9-mz.124-6.T.bin など）。
 - MGCP PRI Setup メッセージ、Alert メッセージ、および Connect メッセージに独自の FacilityIE を使用することで、MGCP E1 PRI ゲートウェイとの間で保護ステータスが交換されます。
 - Unified Communications Manager キーは Cisco Unified IP Phone にだけセキュア通知トーンを再生します。ネットワークの PBX はコールのゲートウェイ側でトーンを再生します。

- Cisco Unified IP Phone と MGCP E1 PRI ゲートウェイの間のメディアが暗号化されていないと、コールはドロップされます。



(注) MGCP ゲートウェイの暗号化の詳細については、使用している Cisco IOS ソフトウェアのバージョンの『*Media and Signaling Authentication and Encryption Feature for Cisco IOS MGCP Gateways*』を参照してください。

セキュア通知トーンと非セキュア通知トーンの設定作業

セキュア トーンを再生するには、次の項目を必ず設定してください。

- **[Unified Communications Manager Administration]** で **[Device] > [Phone]** を選択すると表示される **[Phone Configuration]** ウィンドウで以下の項目を設定します。

- ウィンドウの **[デバイス情報 (Device Information)]** 部分の **[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]** ドロップダウン リストから、**[標準保護電話 (Standard Protected Phone)]** を選択します。



(注) 保護された電話機用の補足サービスソフトキーのないソフトキー テンプレートを使用する必要があります。

- **[Join Across Lines]** オプション (同じくウィンドウの **[Device Information]** 部分内) では、**[Off]** を選択します。
- **[Protected Device]** チェックボックス (同じくウィンドウの **[Device Information]** 部分内) をオンにします。
- **[Device Security Profile]** ドロップダウン リスト (ウィンドウの **[Protocol Specific Information]** 部分内) から、**[Phone Security Profile Configuration]** ウィンドウで設定済みのセキュア電話プロファイルを選択します (**[System] > [Security Profile] > [Phone Security Profile]**) 。
- **[Phone Configuration]** ウィンドウからディレクトリ番号を追加するときに表示される **[Directory Number Configuration]** ウィンドウに移動します。 **[Directory Number Configuration]** ウィンドウの **[Device DeviceName]** 領域内の **[Multiple Call/Call Waiting Settings]** で、次のオプションを値 1 に設定します。
 - Maximum Number of Calls
 - ビジー トリガー

- [Cisco Unified Communications Manager Administration] で、[System] > [Service Parameters] を選択します。最初の [Service Parameter Configuration] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco CallManager サービスを選択します。2つ目の [Service Parameter Configuration] ウィンドウで [Clusterwide Parameters (Feature - Secure Tone)] 領域を見つけ、[Play Secure Indication Tone] オプションを [True] に設定します。（デフォルト値は [False] です。）
- 保護された MGCP E1 PRI ゲートウェイを設定したら、[Unified Communications Manager Administration] で [Device] > [Gateway] > [Add New] を選択し、サポートされているゲートウェイを選択します。プロトコルとして [MGCP] を選択します。[Gateway Configuration] ウィンドウが表示されたら、次の設定項目を指定します。

- [Global ISDN Switch Type] を [Euro] に設定します。

- MGCP ゲートウェイのその他の設定を完了したら、[Save] をクリックし、ウィンドウのサブユニット 0 の右側に表示されるエンドポイントのアイコンをクリックします。[Enable Protected Facility IE] チェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにします。

この設定により、Cisco Unified IP Phone エンドポイントと、MGCP ゲートウェイに接続している保護対象 PBX 電話との間でコールの保護ステータスを渡すことができます。

